

第1回 上川町層雲峡温泉白水沢地区等地熱研究協議会
議 事 要 旨

日時：平成24年11月14日(水) 13:00～15:40
場所：上川町役場大会議室

■出席委員(敬称略)

池田 隆司(会長)	北海道大学大学院理学研究院特任教授
岩崎 幸一(副会長)	上川町副町長
安部 逸雄	上川町議会運営委員長
新井 光雄	上川中央農業協同組合長
鎌田 康雄	上川町商工会長(代理:森本恭弘副会長)
嶋崎 真市	層雲峡温泉旅館組合副組合長(代理:西野目智弘事務局長)
西野目信雄	層雲峡観光協会長、層雲峡温泉旅館組合長
布谷 達夫	上川総合振興局産業振興部商工労働観光課主幹
保田 信紀	上川町自然科学研究会長
八幡 正弘	北海道立総合研究機構地質研究所資源環境部長

■その他出席者(敬称略)

廣瀬 勇二	北海道地方環境事務所国立公園・保全整備課長
大澤 隆文	北海道地方環境事務所上川自然保護官事務所自然保護官
立野 雅樹	北海道経済産業局資源エネルギー環境部課長補佐
三上 敬一	北海道森林管理局上川中部森林管理署業務第1課長
西村 義	北海道開発局旭川開発建設部治水課上席治水専門官
高橋 徹哉	北海道立総合研究機構地質研究所資源環境G研究主幹
柴田 智郎	北海道立総合研究機構地質研究所資源環境G主査
上垣 雅裕	丸紅株式会社国内電力プロジェクト部長代理
荻部 桂太	丸紅株式会社国内電力プロジェクト部長代理

■事務局出席者

谷 博文	上川町企画総務課政策推進室参事(研究協議会事務局長)
渡辺 敏雄	上川町企画総務課政策推進室参事
泉 勝雄	上川町企画総務課長
昔農 正春	上川町企画総務課課長補佐企画G
藤井 吉光	上川町企画総務課主査企画G
金野 哲也	上川町企画総務課主査企画G

■議事要旨

◎議事に入る前に、佐藤芳治上川町長から層雲峡温泉白水沢地区等地熱研究協議会発足、第1回会議開催にあたり挨拶があり、経緯の説明や趣旨に賛同いただき協力をお願いした池田会長、酒匂相談役をはじめ各委員、各関係団体機関に謝意を述べ、目標達成に向けた合意形成の確立についての強い思いを話された。

◎研究協議会の概要、委員の紹介など事務局から説明を行い、また、副会長の選任について了承された。

◎池田隆司会長から会議冒頭にあたり会長挨拶をいただき、要綱の目的に沿った考えで当研究協議会を進めていく。潜在的な日本の地熱資源は世界3位と言われ、この資源の有効活用について情報の共有を図り合意形成に努めていきたいなど委員各位に協力をお願いした。

●議事1 北海道立総合研究機構 地質研究所からの説明

資源環境部長で当研究協議会委員の八幡正弘氏から「層雲峡温泉白水沢地熱開発の経緯」についてスライド上映によりご説明いただいた。

- ・過去の調査経緯、時期、結果
- ・1号井から4号井蒸気分析、調査結果の概要
- ・北海道発電用地熱開発基本計画
- ・開発地点周辺の自然環境及び社会環境影響
- ・白水沢及びその周辺地域の地熱資源の利活用

●議事2 環境省からの説明

自然環境局国立公園課課長補佐の吉松重記氏から「国立・国定公園における発電事業の現状」についてスライド上映によりご説明いただいた。

- ・国立・国定公園における地熱開発の現状
- ・地熱発電が進まなかった理由、問題点
- ・国立・国定公園内における地熱開発の取扱いについて
- ・規制見直しの経緯、新たな通知の考え方
- ・優良事例の形成と検証

●議事3 層雲峡温泉白水沢地区現地情報

本年、9月に現地調査したビデオを3分程度に編集してスライド上映行った。

●議事4 意見交換

池田会長 今までの皆さんのご説明を受けて意見交換に入ります。忌憚のないご意見など何かありましたらよろしくお願ひします。八幡委員は、ビデオをご覧になって印象はありますか。

八幡委員 私は現場に行ったことがないので、今のビデオを見て少しショックを受けています。湯元がおかしくなっている気がしています。1990年頃まで計測調査していた者が一人いて、話を聞くとそれまではバルブをメンテしていて、当時は開け閉めが出来ていた。その後、町に移管されてどのようになっていたのか判らないが、バルブがどうなっているのか気になりました。

西野目委員 (信雄) 前段の八幡氏の話は30年前のデータですが、今は、自然ですから環境の変化が生じてきていると思います。出来れば新しい環境の科学的データを早くとって、そこで検証する必要があると感じました。私ら温泉事業者は、全国の業界仲間も一般的には反対の意見を持っているし、出しています。検証もしないで反対はないであろうということで、私は敢えてこの協議会に出席して、お互いに検証していこうという態度を表明しております。
佐藤町長とは、温泉に影響は有ってはいけないことが第一の原則であると話しておりますことから、それも含めて新しいデータを早く示してほしいと思っております。

八幡委員 層雲峡は、毎分1トンぐらいのものは前にも生産されていて、近年の状況を把握することが必要だと思う。別のところのデータを持っているが、実際、お互いが納得できるデータをオープンに出来るものをもっていかである。

池田会長 温泉の環境も随分変わってきていると思う。地中の深いところの環境ですが、地熱モデルにしても変わってきている。その辺も含めて何をやるかである。

保田委員 白水沢、その上流に黒岳沢と赤石沢がありまして、下流域にはリクマンベツ沢、天幕沢と白川沢があります。私自身、専門が昆虫で、全て調査しましたが、生

殖分布はほとんどが同じでありました。地熱関係についても調査を早めに行ってほしいと感じました。

池田会長 委員の皆さん、それぞれの立場からご意見を頂きます。

西野目代理 (智弘) 層雲峡温泉旅館組合事務局長の西野目でございます。基本的な立場は、層雲峡観光協会長の考えと同じスタンスであります。地熱発電に関しては、現段階では賛成でも反対でもないというニュートラルな立場をとっております。判断材料としては、色々な科学的データが必要だと思っております。何よりもしっかりと調査を進めていくことが大切であると考えております。

安部委員 議会側としては、去年は岩手の松川地熱発電所に事務局長も含めて9人で現地調査、視察して参りました。基本的には、去年の3月11日以降、地元にあるものは有効に活用していこうと考えており、議会としてこの地熱については、積極的にやっていかなければ、将来に向かって今までのように化石燃料に頼りすぎると二酸化炭素の問題も起きてくる。そのような課題も含め取組としてやっていくべきだ。それと、これだけの調査資料があつて、これだけの活用策がないのは、先程、環境省から話のあつたコストの問題ですね。上川も、当時からコストをかけてきましたが、これからはそんなにコストはかからないだろうと考えられるし、もう一つの問題は、地熱開発の懸念される問題の窒素などありますが、水も戻さなくて良いなど優良な地熱だと思っております。議会の立場としては、何らかの協議会を立ち上げて、是非、推進する方にする考えを持っています。

森本代理 商工会の鎌田会長が欠席のため、代理として副会長の森本が出席させていただきました。色々な説明を受け、初めて聞くことも多く、戸惑っている部分もありました。今日のために、商工会長、事務局長に確認して参りました。経済団体の商工会としては、地熱の上川町にある有効な資源として考えるならば、積極的に協力していくべきであろうと、また非常に期待しているということでありました。私個人的には、今日の説明にあつたように3.11という去年の事故以降、エネルギーのあり方がかなり問われております。私も東北に身内がおりまして、そのことを考えると、今後大きな意味でも子どもたちに残していけるものは何なのか。原子力でなくて地球上にある自然のものが良いのかなあと強く思っております。特に、地熱は日本の国にとって大きく期待できるものであつて、なお且つ、大雪山国立公園というのは歴史が有り、私も生まれたときから見てきて、とても誇れる場所だと思っております。自然景観等十分に配慮した中で有効に活用できるのであれば、積極的に前に進めてもらいたい。

布谷委員 上川総合振興局といたしましては、知事も道内における自然エネルギーの関係は全国一と考えております。地熱に関しては、上川エリア、また、道内6カ所が経産省の調査等も当たっている部分もあります。八幡部長の話がありましたが、利用できるものであれば、国立公園内の景観に影響がないものとして、なるべく早い時期に利用していくことができないものかと思っております。ご存知のように、節電と言う話も出てきておりまして、皆さんにお願いすることになりますし、厳しいしわ寄せはありますけれど、有効活用できるものを積極的に活用していく必要があると上川総合振興局では考えております。

岩崎委員 上川町副町長の岩崎です。疑問に思ったことが有ります。昭和6年国立公園法

が制定され、大雪山については昭和9年に国立公園に指定されております。そこで80年近く経過しているわけでありまして自然体系や生態系など相当変わってきております。特別、第1、第2、第3とある地種区分の変更のための環境調査などを行い、50年とか60年スパンで見直す必要があるのではないかと思います。

また、温暖化によって温度も何度か上がっていることも自然や生態系も大きく変わってきている。雪が降ってこない、この異常現象をどう見ているのか。このようなことから早急に見直すための調査することが必要と考えます。その結果、地種区分が見直されて決まってくるのではないかと思います。

吉松補佐 私から、今の件についてお話しします。
基本的に国立・国定公園というのは、自然保護する部分エリアを広めるべきというのが情勢であります。その中で見直しの作業が行われている。どちらかと言うと守るべきものを増やしていくべきだというのが基本的であります。今、守るべきものを狭めるということは、無いのではないかと考えております。

池田会長 環境省の色々な資料の中で見直しがされるということで、その経緯など説明を受けたが、自然公園の区分や開発段階ごとに許可が可能となる要件や方向を検討すると、まだまだ色々な事例が出てきて、見直しが出てくるから検討中であり、その都度その都度、さらに検討するとのことですが、決まった基準はないのか。

吉松補佐 4月に東京で事業者や関係者を集めて、この話と環境省としての地熱開発について説明しました。
その中で事業者からガイドラインを作るべきという話がありました。無いと支障が有るということですが、過去は過去として、今新たな通知を出してこれから優良事例の検証を行う。今まさにスタートを切った段階で、ここでガイドラインを作るとブレーキをかける可能性がありますので、常にガイドラインの見直しをかけなければならないとなると策定した意味がなくなってしまう。一歩ずつ一歩ずつ、ステップ by ステップでお互いの中で優良事例であるか、優良事例であるときは、どういったことが必要かと議論を深めながら検証していくということです。

西野目委員 (信雄) お話を聞いていると、地熱開発に関する前向きな話が大体議論が出尽くしたと思いますが、お手元の資料にあります環境省資料10ページ上段の部分にあります地熱開発の問題点ですね。ここに書かれているリスクをどのように解決していくかにある。今回は、コストの問題、ここは検証する必要があると思っています。
我々温泉事業者としても、自然景観は大きな財産であります。ひいては、我々だけでなく日本、世界の財産と言うべきものでありますので、ここを損傷してまでもということとは多分にあると思います。この辺を検証しながら進めてもらいたい。

池田会長 いろいろなご意見をいただきました。冒頭に述べましたが、これを結論にするという問題ではなく、皆さんのご意見をいろいろな角度から生かして、今後の話し合いや次のステップにどの様に持っていくかであります。今回は、第1段階という位置付けであります。
オブザーバーの方々からは、ご意見はありませんか。無いようですので、これを持ちまして議題の全てを終わります。

◎事務局から第2回会議日程を1月24日(木)午後1時30分に開催する旨の報告を行った。